

日中岡山支部総会のご案内

日中岡山支部は、下記のとおり 2021 年度の総会を開催します。ぜひご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

今年の第 70 回全国大会(6 月 12 日(土)・東京)は、オンラインで開催されます。岡山支部の総会は、これを受けて開催します。

昨年同様、コロナの感染拡大の中で開くため、感染予防(マスクの着用など)に万全を期してご参加ください。なお議案は、6 月 14 日(月)に発送します。当日ご持参ください。

と き : 6 月 20 日 (日) 10:00~12:00

ところ : 岡山市福祉交流プラザ旭東

※ 折り鶴を持ってきてください。6 月 21 日 (月) に表町に飾る予定です。

※ 連絡先 小林事務局長、まで
携帯電話 090-8240 - 2001

倉敷支部総会と文化講演会の会場は変更になりました。

7月3日
玉島文化交流センター
です。

日中
おみやげ

題字 萩原田 親

No. 949

2021/5/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都中央区浅草橋2-1-3
浅草7-5-5 館
電話 03(5839)2149(TEL)
FAX 03(5839)2141
http://www.jcfk.or.jp
E-mail: jcfk@jcfk.or.jp
URL: 03(5839)2141

日中友好協会
岡山支部
〒705-0034
岡山市北区下伊福
西町1-58 民主会館1F
TEL: FAX 0861258-8808

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福成町東22461-45
TEL: FAX 0861411-7808

日中友好協会岡山支部ホームページ

<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>
メールアドレス

nicchukayama@yahoo.co.jp



中国帰国者問題写真と資料展(その2) ― 帰国者介護に希望の光 ―

今回は、残留婦人二世の配偶者で芳田日本語学習講座の受講者である益田聖子さんと、青木さんの感想文を紹介いたします。

帰国者介護問題は

みんなの注目の問題

益田聖子

中国帰国者の歴史と現状」は二〇二一年で一三回目の展示になります。帰国者の苦難の経験を温めて、先人をしのお歴史を肝に銘じておく。故郷の肉親と再会して四〇年ほど、喜びもあれば苦みもあります。今帰国者は高齢者になりました。多くの人が介護サービスを利用します。老人ホームに長年住んでいる人もいます。そこで、孤児たちは大半を中国で生活して、日本に帰国したので、言葉が通じず、食事に慣れていないので、日本人中心の介護に溶けこむのは難しく、退屈で孤独を感じていました。

帰国者介護問題について、二〇一七年から連続して展示を行っています。日中友好協会岡山支部は何度も取材して、介護に関

する資料と写真をたくさん集めました。二〇一八年の展示会で帰国者介護に、希望の光を始めてみました。残留孤児二世のAさんは帰国者のために、数年前から介護の仕事をしています。Aさんが勤めている介護施設でサービスを受けている帰国者も多くいます。年齢を重ねると介護を必要とする人が多くなります。

今年の展示会で「帰国者介護に希望の光」を再びみました。残留婦人三世のBさん夫婦は、帰国者介護の困難な実態を知るため、何度も帰国者を訪ねました。そして二〇一九年帰国者研修会で、「訪問介護」の課題について講演を聞きました。参加者全員が「これで帰国者介護の問題が解決に向かう」帰国者のためになる事をしてくれる」と思いました。

夫婦は一年以上の努力を経て、社会各界から支持されました。とくに日中友好協会岡山支部が熱心に応援してくださいました。二〇

右から二人目が益田さん

※裏へつづく



『中国帰国者問題』第13回写真・資料展で、初めて受け付け当番をさせていただきました。

「私、満州で生まれたのよ。懐かしいわ。」と、熱心に展示を見てくださった方を含め、初日は約80名の方が来場されました。新聞やテレビなどで見たり聞いたりしていた程度で、どこか現実感のなかった私は、青木康嘉さんから展示物の詳しい説明を聞いてとても驚きました。

日中友好協会の小林軍治さんが、まさにあの命懸けの引き揚げを体験された歴史の証人だったからです。そして、信じられないような大変な思いをされた方に思いを馳せました。日中友好協会岡山支部もこれまでたくさんさんの支援や交流を行ってこられたことも知りました。

帰国者も高齢になり日本語未習熟、適応不十分のまま老後を迎える方は、医療・介護などで、とても不安に思われているのではないのでしょうか。国策で中国に渡って帰ってこられた人たちに、国はもつときめ細やかに対応していただきたいと思いました。そして、岡山市役所1Fのロビーで展示することにも意義があります。もつと身近なところで知っていただき、帰国者の方々と交流できる機会がもつとあればいいと感じました。

第12回岡山県支部連合会結成の打ち合わせ会

4月16日(金)午後2時30分より、日中岡山支部事務所で小林、真田、河井、宇野、犬飼、平井の参加で行われました。前回から今回までの経過報告で、岡山支部からは3月7日の中国帰国者との交流会と岡山市役所での展示会の準備が、倉敷支部からは映画会「戦争と人間」の上映が報告されました。

各支部の総会は、岡山が6月20日(日)、倉敷が7月3日(土)に第24回中国問題文化講演会と併せて行われます。

その後新聞製作費、発送費についての両支部の負担について話し合い、2021年度内の県支部連合会結成について取り組みを強めることを確認しました。

次回は6月18日(金)午後2時30分より倉敷公民館で行われます。

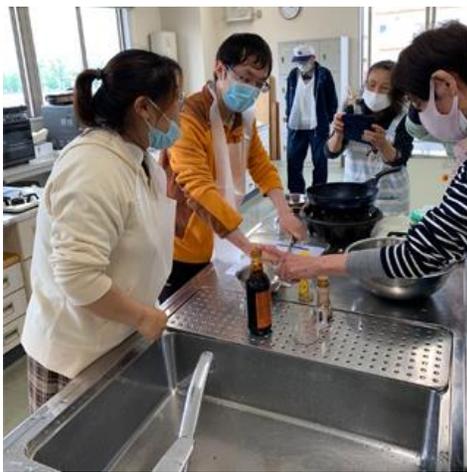
河井

餃子を作る会のお話

小川涼子

4月17日(土)、餃子を作る会は責任者の遅刻というハプニングで始まった……。

15分遅れで調理室に入った総勢9人の参加者は、まずは急いで皮を作り始めた。強力粉が何袋あったか、とにかくボールにぎばーつと出して、適当に水を入れてこねた。手首を痛めるかというほどに力を入れてこねた。



どのくらいこねればいいのかもよくわからないままこねた。劉先生がいなかったら、まともな皮が作れなかったかもしれない。

さあ、皮がとりあえずこねあがったら、お次は中身だ。

ニラを切り、炒り卵をつくる。一つ目の種だ。二つ目の種はそこに豚肉を加える。三つ目はさらに干しエビを加えた。

三種の種はできた。計画通りだ(おおよそ)。



劉先生が来る途中のお店で購入したという、中華調味料も入れた。完璧だ(たぶん)。

あとは皮で包むだけだ。……包むだけだ!

しっかし、皮を丸く薄く作るのが難しいこと難しいこと。蕎麦を作る用と思われる長くて太い麺棒で無理やり作るうとしてるもんだから、よけいに難易度が高い!

どうにかこうにか作った皮で、ようやく三種の種を包み終わったとき、大量の皮があまっていたのはどういった計画性のなさか……。

そして出来上がったときにはどの餃子にどの種が入っているかわかっていたのが、タッパー

に入れて持って帰る段階で、どれがどれかわからなくなるといふ事態が発生していたのは、私が持ち帰った分だけであろうか?

(コロナの関係で、調理のみで、食べるのは持ち帰っておうちで湯掻いてから、でした) そんなこんなで30分超過してなんとか作った水餃子。

姫先生の家庭の味を、劉先生の指示のもと作ったことは秘密にしたほうがいいのだろうか?



次回の新聞送作業は5月28日(金)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださいました方です。

田林内井
池犬小竹坪